

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ／共生環境学科 自然環境システム学講座 (25年度バージョン)

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
総論的科目	○生物資源学総論 (1-1, 1-2) ○FSC 体験演習 ○共生環境技術者倫理 (1-1)							
(A)～(D)に共通する基礎科目群 (全部の科目が4-1)		○環境系数学 ○環境情報学	○環境解析基礎 (自然講座) ○環境物理学 I ○環境物理学 II ○環境物理学 III ○共生環境 FS 概論 ○共生環境 FS 実習 (通年)	○環境化学 ▲環境系応用数学 I ▲応用アルゴリズム論	○環境科学実習 (通年) ○自然環境システム学演習 I ▲環境系応用数学 II	○環境科学実験 ○自然環境システム学演習 I ▲地理情報システム学	○卒業研究 ○自然環境システム学演習 II ▲科学英語	○卒業研究 ○自然環境システム学演習 II
(A) 気象・気候・海洋学				○気候環境システム学 ○大気科学 ▲海洋環境学	○大気海洋科学 ▲海洋気候学			
(B) 生態学・景観学・森林科学			○環境保全生態学 ○景観生態学	○森林・緑環境計画学 ▲森林計測学	▲森林生態学 ▲森林景観学	○森林・緑環境評価学 ▲景観設計論		

			▲森林環境保全論			▲森林航測学		
(C) 自然災害科学				○水文循環環境学	▲森林水文学（開講時期に注意） ▲保全砂防学 ▲応用水文学			
(D) 地球システム進化学・環境科学一般				○地球システム進化学概論 ▲土と水の力学	▲応用地質学（開講時期に注意）	▲土壌物理学 ▲水処理工学		
その他の関連科目			▲測量学 ▲測量学実習基礎	▲測量学実習応用				

- (1) 上記の表は、各科目が、「学習・教育目標」の4-4の記述した、(A) 気象・気候・海洋学、(B) 生態学・景観学・森林科学、(C) 自然災害科学、(D) 地球システム進化学・環境科学一般のどれに対応しているか、また、(A)～(D)のうちいずれかに関する深い専門知識を取得するためには、どの科目を履修すれば良いかを示すものである。
- (2) つまり、例えば(A)を主に(D)を副に専門性を身に着けたければ、必修科目とともに、「(A)～(D)に共通する基礎科目群」「(A)」「(D)」の選択科目を選べばよい。
- (3) この表の趣旨は、「学習・教育目標」の4-4をわかり易く説明しようとしたものであるが、「学習・教育目標」の1-1～4-1についても、特筆すべきものは、上記の科目名の後ろにカッコ書きで示している。ただし、ほとんどの「目標」については、全科目で、その取得を目指した教育を行っているので、個別にカッコ書きはしていない。特に、3-1, 3-2については、全科目で重視している。
- (4) FS, FSC という語は、それぞれ「フィールドサイエンス」、「フィールドサイエンスセンター」の略である。
- (5) 表中、○は学部、学科、講座のいずれかの必修科目、▲は選択科目を表す。